

井戸端だより

第79号

発行日：2012年9月26日

発行：くらしの学習会

もろじ

9月例会報告	1
ジャコウアゲハ 2012-②	3
市議会を傍聴	4
行ってみた敦煌 (ハルピンでの仕事を経て)	5
パートナーが変わりました	11
真実は何かを知りたい	12
雑感	13
宮崎・綾地域エコパークに		18
愛媛新聞より	19
お知らせ 編集後記	21

短歌「虫」

天牛(カミキリ)が鞘翅(サヤバネ)広げ棒の先飛ぶか翔ばずか脚を踏み換ゆ

仔蟪螂(かまきり)尾と鎌かざし我が指に性(さが)を剥き出し桃み掛からむ

天道(=てんとじむし)がドウムを開けてブツと跳ぶ春一番の白爪草をオマケに

ホウタル=雲がひゅうひゅう狐に翔んでやがて鎮まる岸辺の葉先

(A. N)

9月例会報告

7月3日(火)7月例会として西予市宇和町卯之町へ出かける予定だったのですが、大雨の為中止になりました。そこで9月例会で実現する事になり9月5日(水)3人でH21年12月選定された重要伝統的建造物群保存地区『卯之町の街並み』を見て歩き、漬物にこだわる宿『松屋旅館』での昼食を楽しみに出かけました。しかし、出発後に車中から昼食の予約の電話をすると「今日は無理です」との返事に全員ガッカリ。急遽、伊予PAにて当日の行動計画をどうするか全員で相談し、とりあえず現地へは当初の予定通り行く事に決め出発しました。

卯之町中町広場へ駐車して、ここにあった「見て歩きマップ」を頼りに、まずは『先哲記念館』へ。幕末から昭和にかけて業績を残した宇和町ゆかりの人物を紹介する記念館。シーボルトの弟子で、この町で開業医をした二宮敬作。敬作を頼って来町したシーボルトの娘の楠本イネ等18人を紹介し、関係資料を展示している。また東温市の『坊っちゃん劇場』では現在、日本初の蘭方医楠本イネをモデルにしたミュージカル「幕末ガール」が公演中という事もあり、イネの人生・イネに関わった人物について興味深く知る事ができました。私にとって約20年ぶりに訪れた街並みはすっかり整備され新鮮でしたが、街並みにあるお店は水曜日が定休の所が多く、観光らしき人は私達位で、街はひっそりとしていました。そして、私達はその静かな街をゆっくりと散策する事ができました。街並みのあらゆる所に「幕末ガール」のポスターが貼られていて、この町の住民にとって楠本イネの存在の大きさを感じながら『宇和町民具館』へ。

『宇和町民具館』は、卯之町の代表的な商家を模して造られ歴史的な街並みに調和している資料館。桶や箱枕などの生活用具、芝居小屋の招看板や古い床屋の椅子といった商売道具など約5000点を収蔵・展示。他にも郷土の祭で使われる牛鬼や五鹿など、郷土色豊かな資料も展示。こうした資料館はいくつか見学した事がありますが、とにかく雑然と並べられている感の強い所が多い中、非常に綺麗に整理され見やすい展示だった気がしました。

『宇和町民具館』の前にある重要文化財『開明学校』へ。明治15年(1882)町民の寄付により、舶来のガラスにアーチ型の窓を持つ擬洋風のモダン校舎が建築され昭和48年(1973)に修復され当時の姿をとどめている。(明治9年に建築された国内で最も古い長野県松本市にある小学校『旧開智学校』とは昭和62年に姉妹館提携)敷地内には『申義堂』が再建されています。(明治2年、向学心に燃える地元の人々によって自発的に建てられた私塾で、明治5年の学制発布と同時に開明学校の最初の校舎となった。)時報板で始まり、掛図や風琴を使った読み書き、算術、唱歌といった明治時代の授業体験が出来ます。(要予約)

町並みを歩いていると旧家の軒下や屋根に装飾性に富んだ卯建・出格子・蔀(しとみ)・持送り・鬼瓦・飾瓦(大黒様と鯉2匹・大根と茄子3個など)が、いたる所に隠れているそうです。そう言えば、民具館の中庭や館内展示の中にも鬼瓦や飾瓦が沢山並べられていました。この町が「瓦のミュージアム」と呼ばれる理由がこんな所にあるのかも。この日は大変蒸し暑く、私達にはこれらの物を見つける余裕が無く、余り見つける事は出来ませんでした。もっと気候の良い時期に訪れれば見つけられて結構楽しめるのではないのでしょうか。町並み通りに大木が2列に並び日陰がたっぷりある教会幼稚園も素敵でした。

この後、糰関連商品を扱っているヤマミ醤油へ。店舗は結構古い木造の商家で中に入ると、冷んやりとした空気が身体を包んでくれる様な気がします。この静かで落ち着いたある雰囲気たっぷりの空間は、暑さの中を歩き疲れた私達の体を癒してくれます。店内には、『糰ブーム』で塩糰や醤油糰それに糰の甘酒などもあり、糰の甘酒は「飲む点滴」としてこの夏広がりを見せました。最近、『塩糰ブーム』にはまっていて、塩糰や醤油糰は手造りし活用しているのですが、糰の甘酒はまだ造った事が無く、今回このお店に立ち寄れたら購入しようと思っていたので、おまけに濃縮タイプ(常温で日持ちするのが有難かった)で売られていたので、「白い白寿」と「ほんのりピンクの古代赤米入りの百寿」を購入。皆それぞれに「しょうゆの実」や「さしみ醤油」等を併せて購入していました。もう既に12時を過ぎていたので、女将さんのお勧めの昼食場所を尋ねると、最近オープンした女性好みのカフェを教えて頂いたので、このお店を後にしました。

教えて頂いたカフェは昼食時とあって女性客で満席。仕方なく帰る道すがら、鉄板焼きと定食メニューのあるお店を見つけ入店。私は「甘トロ豚の塩糰焼き定食」を注文。愛媛のブランド豚である甘トロ豚を食べるのは初めてで塩糰との相性も良くて美味しかったのですが、普段食べる豚肉はモモかヒレで、肩ロースの様な脂身の多い肉は久しぶりなので、脂っぽかったのと、野菜をたっぷり食べるのが我家流なので野菜が少なかったのが残念でした。外食ではこうしたバランスが普通なんでしょうね。

こうして雨に降られる事も無く(帰路の車中で降り始めましたが)15時過ぎには東温市に無事帰る事が出来ました。Hさん運転お疲れ様でした。(A.M)

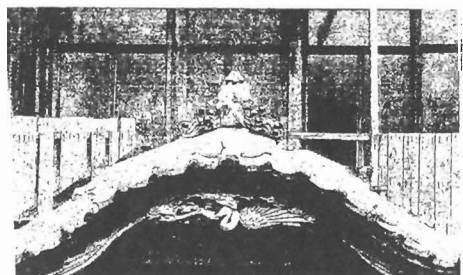


⑩「大黒様と鯉2匹」

コイコイとお客様を招く

★他にも、いろんな「飾り瓦」があります。

よく見ると「大根とナス3個」



ジャコウアゲハ 2012—②

朝一番、庭に出て新鮮な空気を吸う。ウマノスズクサ、ジャコウアゲハの卵、幼虫の成長ぶりを確認し、一日が始まる。待ちかねていたように挨拶にやってくるジャコウアゲハ。あの葉っぱ、この葉っぱの裏にオレンジ色の卵がくっついている。それらが孵化し黒い小さな幼虫になる。そばに脱皮した薄い外皮が残っている。虫食い状態になった葉っぱの裏には元気な幼虫が育っている。柔らかい葉っぱを食べつくすと茎が残りその先に2匹が食べ競っているのをよく見かける。

異変に気付いた。あれほどいた幼虫が見当たらない。まだ小さくてそんなに遠くまで移動していないはずなのに。ああ～～また蜂に食べられた！ 少数ながら生き残ったものは蛹になり羽化してまた優雅に飛び出す。

そのうちに今度は支柱に絡みつき成長したウマノスズクサが枯れ始めた。(これは一時的なもので茎が残っていればまた葉っぱは出てくる) 庭のあちこちから芽を出した葉っぱを見つけ、小指の爪ほどの葉っぱにでも卵を産みつけている。旺盛な食欲で葉っぱはみるみるうちになくなり、根っこまでかじってしまう。ジャコウアゲハの食料を確保してやれない。狭い庭で育てようとすると食草のウマノスズクサとのバランスが難しい。

この2年間熱心に育ててくれたご近所のOさんは、大事に育てた幼虫が食べられたり、蛹が蟻に食べられたり、ウマノスズクサが枯れたりして、気落ちしたようで、ある日ウマノスズクサを根こそぎ除けてしまった。この時期に、残念。ウマノスズクサのあった箇所につつじを植えるとか。急にジャコウアゲハが減っていた。

9/23 現在、少ないながらもまだウマノスズクサも卵も幼虫も成虫もいる。ジャコウアゲハの舞う団地を目指していたがなかなか甘くはない。

東京上野に住んでいる3年生の孫娘は、学校のビオトープからモンシロチョウ・カラスアゲハ・ナミアゲハの卵をもらってきて、夏休みの自由研究にとマンションのベランダで飼育を始めたとか。「幼虫になったよ」、「羽化したよ」と飼育箱の様子を母親がフェイスブックで知らせてくれる。「おばあちゃんの蝶も見たい」と言うので、早速ジャコウアゲハの合成写真をメールに添付した。それを学校へ持って行ったところ先生が教材にすると喜んでくれたとか。

「虫こわ～い」とちぢこまっていた孫娘、今年の夏は、幼虫から脱皮できたかな？

(S・K)

市議会を傍聴

9/19 市議会の一般質問を傍聴した。任期 4 年間の最期の定例会。一般質問の 1 日目は、議員 18 名中 5 名、2 日目 3 名の通告者一覧表を議場入口で貰った。さぞ大勢の傍聴者がと思いきや 5 名の傍聴者と 4 名の新聞記者のみで拍子抜け。

第一発言者の渡部伸二議員は、震災廃棄物関連、えひめ国体関連について等 8 項目に亘り再質問も含め 1 時間の割り当てを少々オーバーし、熱心なやり取りをした。

午後からの大西佳子議員の質問、男女共同参画社会について（市役所の女性管理職登用に向けての人材育成）に関心があった。平成 19 年 3 月に唯一人だった女性課長が退職した後は女性課長不在。それを市長は「この 4~5 年は端境期だった」と表現した。女性係長・課長補佐は何人かいるという。本来は課長以上の管理職に就き、行政の企画・決定の場に女性の意志を反映してこそ、男女共同参画の意義があると思う。

市長は大西議員の最初の質問を受け、答弁に先立ち 8 年間の議員活動をねぎらった。

「今期限りで勇退するが、市民の意見をくみ

とり他市の状況などよく勉強され大変努力された」と。

最期に大西議員からは「大西佳子最期の一般質問を終わります。ありがとうございました」と理事長席・議員席・傍聴席に深々と頭を下げた。皆、拍手で応えた。(S・K)

市議会	女性管理職登用人材育成努める
市長 渡部伸二、平岡明雄、大西佳子、山内孝二(以上無所属)近藤千枝美(公明)の 5 氏が一般質問。 渡部氏は 2017 年	愛媛国体で、重信川かすみの森公園多目的広場にソフトボール競技場を設ける計画を「不安定な河川敷に、1 億数千円をかけて建設するのは不適切ではないか」とたじた。理事者は「万が一の災害に対応できるよう、国土交通省とも協議している」と答えた。 大西氏は市の女性管
理職登用に向けた取り組みを質問。高須賀功市長は「市の正職員は男性 160 人、女性 50 人。課長以上は全て男性だが、課長補佐 36 人のうち 2 人と、係長 35 人のうち 16 人は女性で、近年特に増えた。研修などを充実させて人材の育成に努めた」と述べた。	

震災がれきり視察 副市長意義強調 大西氏は「西谷地域の産業廃棄物積み替え保管施設で、周辺住民から排水や騒音に苦情が出ている」と指摘。高須賀功市長は「4 月末に県が業者へ改善通知を出し、定期的に入り検査している」と報告した。 佐伯氏は建て替え中の国立病院機構愛媛病院(同市横河原)に、高齢者向け総合施設を設置するよう提案。高須賀市長は「5 階建て病棟を建設しており、遊休地を生かせるよう(病院への)協力を検討したい」と述べた。	副市長意義強調 大西氏は「西谷地域の産業廃棄物積み替え保管施設で、周辺住民から排水や騒音に苦情が出ている」と指摘。高須賀功市長は「4 月末に県が業者へ改善通知を出し、定期的に入り検査している」と報告した。 佐伯氏は建て替え中の国立病院機構愛媛病院(同市横河原)に、高齢者向け総合施設を設置するよう提案。高須賀市長は「5 階建て病棟を建設しており、遊休地を生かせるよう(病院への)協力を検討したい」と述べた。
---	---

行ってみた敦煌（ハルビンでの仕事を経て）

8月27日、松山空港を午後1時5分定刻に中国上海へ飛び立った。今回は、夫も私も、ハルビンの東北林業大学からの講演依頼で、いわば仕事での中国行きだった。ハルビンへは2度目となるが、講演を頼まれて行く今回のハルビン行きは、事前の準備も含め、気持ちの引き締まる思いだった。夫の教え子で私の日本語の教え子でもある教授の蔡さん、その奥さんの日本語教師をしている董さんからのお話で、私の方は「日本語の学び方」について、学生30名ほどに講演してほしいということだった。

上海の浦東空港で、飛行機を降りたら、同じ便に乗っていた女性に声をかけられた。1年前コミュニティカレッジで教えた受講生だった。到着ロビーでは大声でまた名前を呼ばれ、驚いて声の方を見ると、松山大学の中国語の先生で、短期語学留学の学生のお迎えだった。異国で偶然知り合いに会うのは格別なことだが、今回は急いでハルビン行きに乗り換えるため、挨拶もそこそこに、荷物を引いて、国内線の方に移動した。

予定通り飛行機に乗って、ほっとしたものの、現地時間午後3時半ごろハルビンに向けて出発予定が、離陸するまでに2時間待たされた。何故遅れているのか、いつ飛ぶのかについてのアナウンスは一切なしだった。ほとんどの乗客は中国人だったと思うが、騒ぐでもなし、あわてるでもなし、平然としている。私達は、空港までお迎えに来てくれる蔡さんの事が気になり、理由をキャビンアテンダントに聞かずにはいられなかったが、よくわからなかった。恐らく、台風の影響だろうということは想像できたが、それならなぜ理由を説明しないのかと思った。

ハルビン空港には蔡さんが大学の車で来てくれていた。早速東北林業大学のホテルへ。空港からは1時間近くかかる。ホテルで、夜10時から晩ごはんを蔡さん一家と一緒にいただく。松山から帰国するとき中学生だった一人息子も今や24歳の大学生となり、たくましくなった。7年前に来た時は、彼はまだ幼さが残っていたし、それなりの日本語だったが、今回は大人の会話の日本語で、その成長ぶりに驚いた。帰国後日本には一度も行っていないということなので、中国で年相応の日本語獲得のために努力しているのだと思った。それに、日本語母語話者並みの発音なので、だれも中国人だとは思わないだろう。大学生になって、山形との姉妹都市交流で、その事務局長をボランティアでしているという。大学卒業後は、日本の大学の大学院に進みたいと夢を語ってくれた。豪華なお食事も、時間を考えれば、とてもたくさんはいただけない。次の日のスケジュールを確認した。夫は午前9時～、私は午後3時半～講演ということだった。私の方は、事前に聞いていた30名ではなく、何と百名の学生が聞くという。レジュメも足りないし、話す内容、進め方も準備してきたもので大丈夫か急に心配になった。

実は、こちらに来る前一人の教え子にハルビンへ行く連絡しておいた。松山大学で

教えた学生で、愛媛大学に進学、東京の大学の大学院博士課程を修了、今年3月に帰国、7月初めに出産したばかりの李さんという女性だ。出産後間もないし、私の方も今回は自由時間が勝手にとれないので、会えないかもしれないと思っていたが、そのことを蔡さんにメールで伝えたら、直接連絡してくれていて、次の日の午前中にホテルまで来てくれることになっているとのことだった。至れり尽くせりで感激だった。

28日、朝6時から夫と大学構内を散歩する。広すぎて1時間かけても、構内の半分も回れなかった。午後私が講演をする建物にも行ってみた。できたばかりの10階建の立派な建物だ。広場では老人が太極拳をしていて、運動場では学生が京劇の剣の練習？、プールは住民にも開放しているということで、この時間でも大勢の市民が集まっている。先日60周年を迎えたこの大学の新しい門ができていた。図書館は学生たちでにぎわっている。授業は8時～ということだが、日本では考えられない朝7時前の光景だった。

夫は8時半ごろお迎えが来て出かけた。一人ホテルの部屋で午後の講演のことを考えていると、10時に李さんが来てくれた。全然変わっていない。出産間もないにもかかわらず、素敵なおワンピース姿で現れて驚いた。赤ちゃんは女の子で、中国名はあるが、旧暦5月に生まれたので、五月（さつき）と呼んでいるという。今ご主人のお母さんが面倒を見てくれているので、出てこられたようだ。赤ちゃんは少し風邪気味だったので、連れてこられなかったが、写真を見せてくれた。李さんがおかあさんに・・・感慨無量だった。タクシーでドラゴンタワー（336m）に連れて行ってくれた。展望台からハルビンの街が一望できた。人口600万、周辺を入れると1000万にもものぼる。ビルが立ち並び、道に車があふれる、中国の北の大都会だ。

喫茶店で色々話す。今は、子育てを楽しんでいるという。落ち着いたら、仕事を探したいが、なかなか職探しは難しいとのこと、今ご主人が車の免許をとっていること、・・・話は尽きないが、12時にはホテルに戻らなければならない。大学の先生方と会食が予定されているからだ。蔡さんからは、李さんも一緒にと言われていたので、急いでタクシーで大学に戻る。ホテルのレストランで、夫の専門の先生方5名と蔡さんの奥さん、李さん、私達夫婦でまた豪華な昼食をいただいた。講演を終えた夫はビールに、ワインにいい調子だったが、これから講演の私はそういうわけにはいかない。李さんが色々な方と知り合いになって、職探しに+になればいいなと思った。それにしても、いわば公の場所に、私の私的な関係者を一緒に食事に誘ってくれる中国人の心の広さに感心するとともに、今の日本では考えられない状況だと思った。

3時半から講演で、3時ごろ蔡さんが迎えに来てくれる。建物の玄関を入ると、大きな電光掲示板一杯に私の名前と歓迎の文字が出ていて驚いた。李さんも講演を聞きたいというので、許可を得た。パワーポイント使用について、事前の問い合わせの折、全く問題ないということだったので、安心していただけただが、実際そのセッティングをする段

になって、電源が繋がらない、CDを聞かせたいと思うのに、スピーカーとつながっていないなどで、あわてた。結局時間ぎりぎりに、何とかなった。CDは、念のために持ってきたオリジナルCDをCDプレーヤーのボリュームを最大限にして聞かせることで対処した。始まる時間には汗だくになってしまった。学生はN2合格レベルと聞いていたが、こちらの質問に、内気なのか意味が分からないのか答えられない学生もいたが、うなずきながら熱心に聞いてくれている学生も多くいた。「運用能力を伸ばす学習法」というタイトルで講演したが、詳細はここでは割愛する。実際90名の学生の前で何とか講演を終えて、盛大な拍手をもらった時はほっとした。唯一の日本人教師から、とても勉強になったと言われた時は、お世辞でもうれしかった。

6時半ごろからホテルのレストランで、日本語関係の先生方5人と蔡さん、夫とで宴会だった。学部長の郭先生、コース長の任先生は、私と同世代で、日本留学経験がある。但し、日本文学の専門家で、日本語教育ではどうなのか疑問だった。先生方の話す日本語の誤用が目立った。唯一の日本人の先生は、昨年8月に赴任したという若い女の先生で、専門は英語だという。この大学の日本語教育のレベルがうかがわれる。今後いろいろ教えてほしいということなので、自分で役に立てることがあるのなら、力になりたいと思った。豪華な食事より何より仕事の後の冷たいビールの何とおいしかったことか。

29日は、敦煌行きで、これも東北林業大学の招待だった。朝、7時に大学の車で蔡さんが迎えに来てくれた。この日は昨日の天気から一転して、大風、大雨だった。果たして飛行機が飛ぶのか心配しながら、空港へ向かう。ハルビン100年ぶりの暴風雨と言うことで、中央分離帯の街路樹のポプラがところどころ倒れ、道路をふさいで大渋滞を起こしている。パトカーと木を伐採する作業車が物々しい。風向きの関係で、空港行きの車線にほとんど影響はなくて助かった。ほぼ予定通り空港に着けた。ところが、大変なことが発覚。何と私のカメラで、夫がポプラが倒れて交通妨害をしているところを写していて、そのカメラを大学の車の中に置き忘れてしまったのだ。日本なら、最終宿泊地に宅配便でも送ってもらってそこで受け取れば大事ないわけだが、中国では郵便局から送ることになり、その場合カメラなどは飛行機で送れないとのこと。電車を使うと、間に合わないということがわかり、がっかりした。教え子と撮った写真などが入っているので、中身だけ送ってもらうように蔡さんに頼んだ。カメラは、いつ戻って来るかわからないが、誰か日本に行く人に頼んで持っていってもらうとのこと。大変な事態になってしまった。この風雨の中、北京行きの飛行機はほぼ予定通り飛んだが、次の西安行きの飛行機が大幅に遅れた。それによって敦煌行きの飛行機が、遅れることになった。飛行機の中から、中国の雄大なゴビ砂漠を見た。荒涼とした土地が果てしなく広がっている。結局敦煌空港に着いたのは、予定時間を大きく過ぎ、夜9時過ぎだった。でもまだ明るい。ここからは、蔡さんも未知の世界なので、ツアー会社にお任せしたというこ

と。空港には係の張さんが迎えに来てくれていた。韓国現代の乗用車で、後ろのトランクには夫の大きい旅行鞆一つ入れたらあとのものは入らないため、蔡さんの鞆も私の鞆も後部座席持ち込みだったので、座るスペースが狭かった。張さんは中国の運転手にしては極めて運転が穏やかで安心して任せられる人だった。元軍隊にいたという。人柄もよさそうな人だった。敦煌のホテルに着いて、チェックインして、張さんに聞いた伝統的なこのあたりの食べ物通りへ繰り出した。看板にアラビア語が混じっているのは、いかにも内陸部だ。トルコ系、イラン系の顔つきの女の人も見かける。

このあたりの食べ物は、羊肉の串焼き、牛ミンチのつくね焼き、野菜の串焼きで、すべてカレー風味の香辛料で味付けされている。冷たいビールに、串焼きがおいしかったが、時はすでに深夜だった。人通りはまだ多い。大きなワイングラス状のピッチャーが目新しかった。敦煌土産を探してみた。このあたりの木で作ったキーホルダーを見つけた。名前を彫ってもらえば、印鑑にもなる。一字だけと言われ、夫と私のものを彫ってもらった。いかにも敦煌らしいお土産だと思った。

30日は、朝8時に出発して、シルクロードの玉門関へ。そこへ行くまでの道は、何もない砂漠地帯。たまに駱駝のえさになる植物が生えているが、全く何もないところだった。遠くに低い山が見える。それでも、去年、今年と雨が降って、雨が降るとたちまち草が出てくるのだそう。どこに種が潜んでいるのか不思議だ。途中見渡す限りソーラーパネルが並べられている太陽光発電の重点基地を通った。日本のメガソーラーなどとはスケールが全く違う。不毛地帯でも、このような活用方法はあるのかと思った。

敦煌の中心から90キロ離れたところにある玉門関は、昔西域の和田などの美しい玉がここを通過して輸入されたため、その名がつけられたという。BC107~8ごろ造られたらしい。玄奘三蔵がインドに向けて通過したのはこの関である。近くに川が流れているのが見える。水のあるところには、やはり植物が生えている。

そこから、再び車で雅丹（ヤダン）という自然の力でできた奇岩が並ぶ地質公園入口へ。ここから、マイクロバスに乗り換えて、奥の奇岩を見に行く。スフィンクスとか将軍帽とか名付けられた奇岩が並ぶ。マイクロバスを下ろされて、1時間散策することになっていたが、その時間がもったいないように思い、乗ってきたバスに乗せてもらうように交渉してもらった。初めダメだと言われたが、もっとここにいたいという乗客がいて、代わりに乗せてもらえた。戻って遅いお昼ご飯を食べようとレストランに入ったが、団体客の予約が入っていて対応できないという。店でカップラーメンを買って食べたらとアドバイスを受け、スーパー価格の3倍の値段のカップラーメンを買ってお湯をもらい食べた。同じ道を帰る途中、漢長城を見る。万里の長城のように昔はずっと連なって外敵から守っていたのだろうが、今はほんの一部残るのみだ。黄土にアシ等を補助材料にして造ってあるのがわかる。

その後、鳴沙山へ行くことになっていたが、運転手が、今行ったら暑すぎるから、一旦ホテルに戻って休んで、少し涼しくなる5時半ごろから行った方がいいとアドバイスしてくれたので、それに従った。再び、車で鳴沙山へ。砂漠の山で、光と影のコントラストがとても美しかった。入り口で膝まですっぽり入るオレンジ色の布袋を借り、靴の上にそれを履き、砂漠に入る。100元(約1200円)で夫と私は駱駝に乗ることにした。蔡さんは歩いて山の頂上に走るように登っていく。駱駝は初めてだったが、可愛い顔をしたおとなしい動物だと思った。よく訓練されていて、足を折って座って、お客が乗ると合図で立ち上がる。駱駝には、重い客で申し訳ないと思ったが、快適だった。5人一組で砂漠の山を登っていく。中腹まで行って、休憩。そこからは歩いて頂上を目指す。素晴らしい眺めだった。駱駝の最終地点から、砂地を少し歩くと、月牙泉という三日月形をした池が現れた。こんな砂漠の中に何故、水が?と思う。水の周りには植物がある。美しい光景だ。まさにオアシスである。夜8時を過ぎても明るい。満月のような月が出て、月の砂漠の歌さながらの光景にうっとりした。

晩ごはんは火鍋だった。辛いスープと豆乳スープが一つの鍋にわかれて入っていて、好みの方に羊肉・牛肉・野菜・ゴムひも状の豆腐・うどん(ウエイトレスが棒状のものを目の前で長い麺に伸ばしてくれる)を入れて、しゃぶしゃぶして食べる。とてもおいしかった。

31日は、見学後直接空港へ行けるように荷物を車に積んで、朝から莫高窟へ。入場開始時間に合わせて行ったのだが、各国語ガイド付き(180元)でないと入れないということだった。日本語ガイドは、日本人観光客が少ないため、1時間待って7人集まったところでやっと始まった。ガイドが窟の扉の鍵を一つずつ開けて入って説明、終わったら再び鍵を閉めて出るということで、貴重な遺産を守っているということのようだ。見られる窟は限られているが、入った窟の彩色された釈迦や菩薩や壁画、天井画に圧倒される。ここの像や壁画は時代がまちまちだが(4世紀~14世紀)、紀元366年ごろから造営が始められたと言われている。もちろんユネスコの世界文化遺産の一つである。前の日に行った鳴沙山の断崖に全部で492の洞窟が残されているとの事。礫岩で崩れやすい地質なので、保存は極めて難しい。崩れたところは、同じような色調と地質で復元・補強してある。時代によっては、西域の影響を色濃く受けている仏像の顔だったり、足の組み方だったり、手の位置だったりする。仏像などについてあまり詳しくないのが情けない。よく絵ハガキなどで見る木造5層の建物の中は何と35.5mの弥勒大仏だった。大学受験の時、世界史をとったはずだが、中国の歴史、国の名前の変遷をすっかり忘れてしまった。〇〇時代と言われても、それがどれぐらいの時期なのかわからないものも多かったが、時代によって仏像の顔つき、手足の位置、壁画が違うことはわかった。こんなところ数万点の経巻類が封じ込められていたという蔵経洞の発見はすばらしいが、

ここにあったものは大部分がイギリス、フランス、ロシア、アメリカそして日本に持ち去られたという。しかし、その結果敦煌学と言う国際的な広がりの研究分野に発展していく機運になったというのは何とも皮肉である。蔵経洞の謎（いつ、だれが、どのような事情で）はまだ解明されていないらしい。仏像や壁画も剥ぎ取られて持ち去られたと聞くと、胸は痛んだ。漠高窟内では写真撮影は禁止されているので、2時間ほど回った後、敦煌研究院の書店で日本語版の写真集を買った。ガイドさんの説明と像などを確認するためである。

運転手が11時半までに戻ってほしいと連絡が入ったので、あわてて駐車場へ。空港に着いたのが、12時。お昼を食べようと思ったが、敦煌空港にはレストランがなかった。カープラーメンは売っているが、またカップラーメンでは悲しい。しかもこのカップラーメンの値段はスーパーの5倍だと蔡さんから聞く。飛行機は2時40分発の予定だったが、なぜか西安行きの飛行機は大幅に遅れた。荷物を預けて、空港関係者に聞いた近くの食堂に歩いて行く。結局離陸したのは4時半過ぎ、西安でも待たされた。やっと上海に着いて、空港近くのホテルの、無料シャトルバスに乗り、ホテルにたどりついたのは夜1時ごろだった。

次の日上海のホテルから朝6時半のシャトルバスで浦東空港へ。蔡さんとは浦東空港でお別れだった。関西空港行きの飛行機は、1時間遅れ。十分余裕があると思っていた伊丹発松山行きの飛行機の離陸時間30分前に伊丹空港にたどり着いた時はほっとした。そして、無事松山まで帰ってくる事ができた。

今回の旅で、非常時の対応の仕方の違いに国民性が出ていて面白いと思った。飛行機の2時間遅れなどは非常時ではないのかもしれない。日本でも電車などに比べたら、飛行機の遅れはさほど珍しいことではない。しかし、遅れる場合はその理由や、見込みなどの案内、お詫びが必ずあるように思う。それによって、乗客は状況を理解し、納得できるように思う。多くの人が平然としているのを見て、中国のおおらかさを見た思いだった。また、前回の中国旅行に比べ、確実に中国人のマナーが向上しているのがわかった。トイレでも並ぶ光景が見られた。空港のカウンターで順番を無視して割り込む人もまだいたが、一方でそれを注意する人がいたりして、かなり良くなっていると感じた。現在尖閣問題など中国との間には様々な問題が存在しているが、この広大で大きな力を持つつつある国とどう付き合っていくかはこれからの日本の進み方を左右する大問題であると感じた。個人個人の心が通じ合うように国と国の話し合いを密にすることで、理解が深まる事を期待したい。大学の先生の給料が1か月10万円ほどの状況のもと、航空券も宿泊も決して安くない時期に、中国および東北林業大学そして蔡さんが、私達を招待して歓待してくれたことに心から感謝したいと思った。このお礼は、これからの私達の彼らへの継続した支援でお返ししていきたい。

(T・H)

パートナーが変わりました

パートナーは人ではありません。2年前に夫を亡くしたので、ボーイフレンドが出来たのかと思う人がいるかもしれませんが、そんな時間も元気もありません。

13年間、私の足となり体となり働き続けてくれたマイカーを代える事にしました。買い物に、孫の幼稚園の迎えに、塾の送り迎えに、一番役に立ったのは、夫の病院への送り迎えでした。雨の日も風の日も雪の日も、休むことの出来ない透析患者、疲れている時は励まし2人でセットとなり続けた13年間でした。亡くなってからは、助手席を見て「あれいいいのか」と思ったり、空席を押え何回涙したことか分かりません。

車は2人だけの密室なので、孫の事、息子や嫁の事、娘の家族の事、政治について、とりとめもない若い頃の話と、いっぱい思い出の詰まった車を代えることは、私にとっても悲しいことであり、夫に対して冷たい様にも思いましたが、車にも命があり、あちこちがぎくしゃくしても部品がないそうです。

78歳の誕生日を前にして、回りからは「もう免許返したら」とか、「いつ迄乗る気」とか気づかってくれますが、私の住んでいる所は東温市でも、電車迄は遠く店もないので買物難民の一人なのです。

夫が亡くなってから救いを求めて、松山のキリスト教会へ水曜、日曜に通う様になってからは、足の悪い私は駅迄歩くことは出来ません。駅の近くの広場に車を置いて、松山迄電車で行ける事は、私にとっても、一緒に助手席に乗って教会迄行ける友達にとっても2重の喜びです。

又免許証には、大変な思い出もあります。32歳の時、長男7歳、長女5歳を教習所の車の後部座席に乗せ、練習をしました。教習所内の誰かが「子連れ狼がいる」と言ったのが風評被害となり注目されました。夏休み中であり、夫は入院中だったので日直を日曜日にさせてもらい、休み中に頑張っで免許がとれました。その時の嬉しさは、天にも昇る思いで、教習所での苦しさや恥ずかしさは、忘れていきました。32歳からの運転歴ですから、40年を越えましたが、我が家にとっては必需品となり、久万町内に家を建ててからは周辺の学校に通うには大変役に立ちました。時には危ない思いをした事もありますが、自分の車が痛いだけで、人様に迷惑を掛けていないのが、今迄続けられた一つの原因でもあります。

昨日念願適って新しい車が来ました。ピンク色の小さな車ですが、これからは私のパートナーです。買物と電車の駅迄と墓参りに使うだけですから、安全を守ってあと数年私のパートナーでいて下さい。今の歳になって元気で運転出来ることに感謝し、頭の体操にもなる運転操作、間違えないようマニュアル通り運転出来ますよう見守って下さい。

(Sa・K)

真実は何かを知りたい

最近、日本と韓国間では竹島問題、中国間では尖閣諸島の問題がマスコミから流れてくる。これだけの情報が流れていながら、どこに問題の根本があるのか等の国民への情報提供が希薄なのはなぜだろうか。真実を伝えて論じるというマスコミの本来の目的が揺らいでいるのだろうか。国には専門職の外交官、学者の中にも専門として研究している人が多くいるにもかかわらずだ。マスコミの情報収集能力が落ちてきていると感じる。

政治問題、外交問題の専門家の情報提供を私たち国民は欲している。おそらく、今、政治家だと自負している方々よりも、両国との関係を密にしている一般人の方が真剣である。日本に仕事を求めて来日している中国人や中国に工場を作った人や国際結婚した人達は、毎日の自身の生活を支えている友好国だという基盤が揺らぐことに不安感を積もらせている。今、政治家の人たちから聞こえてくるのは、政党間の問題、政党内での派閥争いだけのように思える。これだけ、近隣国から圧力をかけられているにもかかわらず、どうして、もっと、国民への根本的な情報提供をしないのだろうか。しないのではなく、できる能力を持っていないのかもしれないとさえ思わせる。できないのなら、責任をもって話ができる専門家がすればいい。尖閣諸島の購入については、なぜ、この時期に話を進めたのかの真実がわからない。どんな問題があり、それをなぜ、急いだのか、私たち国民は知る権利があると思う。

韓国女性の従軍慰安婦問題についても、それが規制の事実であったかのように思ってきたが、最近の情報によると、それはそうでもなく、最初に日本人によって書かれた一冊の自叙伝のようなものから始まったに過ぎないとの情報もある。その内容が真実かどうかを調べた韓国のジャーナリストによると、その手記は全くの作り話だったというのだから呆れてしまう。慰安婦問題がこの一冊の本からはじまり、一国のトップ外交でも取り上げられて、何回誠意を尽くしても、慰安婦像が建てられてしまうことにしかかっていない国の外交能力の無さには呆れてしまう。外交官も政治家も努力をしてきたとは言えないと思う。国民に真実が告げられないまま、よくある男性の接待外交の結果なのではないのかとさえ言いたくなる。

竹島と尖閣の根本的な問題は全く違うスタンスから始まっているが、いままでの歴史の中でどう取り上げられてきていたのか、今、直面している問題がどうなのか、今後どうするのか、どうしようとしているのか、国民の誰もが理解できるようなマスコミ情報を流して欲しい。

長くひとつの政党に寄りかかってきたしわ寄せが、様々なところに綻びを曝け出さざるを得ない状況に立たされている日本国。行き当たりばったりの外交が陰りを見せてきていることに私たちは気づかざるを得ない状況にある日本国。

ベトナムから来ている 20 歳の若者は「私の国ベトナムでも同じような問題が、中国とはあります。私は戦争になったら、自分の心に聞いて、戦争に行くかもしれません」と、言った。彼は、身分的には学生なので、兵役は免除されるはずだが、彼の顔は真剣だった。でも、彼は戦争を知らない。「本当に行くの？」という私の問いかけに、「本当は、わかりません」と答えた彼の笑顔に心が救われた。

(M・T)

雑 感

綾の空気はすっかり秋のものになりました。黄金色の稲穂の波は頭を垂れ、あたりに芳ばしい香りを漂わせています。緋色、白、橙色の彼岸花が次々に咲き始めました。暦通りです。

台風 16 号通過後の空は抜けるように青く、いわし雲が空一面を泳いでいます。

あれほど冷たく感じていた蛇口からの水も温かく感じるようになってきました。井戸水ならではの贈り物です。

鳥たちの囀りも、シルエットも随分と様変わりし、種類が増えました。聞こえる度に、会う度に、あなたは誰？と尋ねるのですが…名前が判るともっと楽しいのに、と、少し残念です。

そんな秋の兆しに誘われて、宮崎県の北西に位置する五ヶ瀬町にツリフネソウに逢いに出かけました。ツリフネソウは、愛媛県では東温市の風穴周辺、白糸の滝近くでよく見かけた大好きな花です。宮崎県では五ヶ瀬ハイランド(日本最南端のスキー場)あたりに自生していると聞いていました。しかし、片道5時間近くかかるため、昨年は飼いだめたばかりの杏が幼く、連れて行くのも、留守番させるのも無理なので、諦めました。今年は、私の不注意の骨折から半年。山道歩きはまだ不安で、ほぼ諦めていましたが、東温市の友人から、ハガクツリフネやキツリフネの便りが届くようになると、居ても立っても居られなくなり、一日中晴天で、大五郎と杏が留守番できそうな日を選んで、思い切って出かけることにしました。

西都市から西米良村に入った頃から景色は一変し、山は装い始め、畑ではコスモスが白、薄紅の花を風にそよがせていました。一ツ瀬川の上流は、面河溪谷に似た岩の景観が続いていましたが、突然、川を分けるように高く切り立った壁の様な巨岩が現われ、中国の山水画を見ているようでした。カリコボーズ(西米良村の精霊)の住む桃源郷です。途中、湖の駅で一息入れ“シシモドシ”という木の束を買いました。煎じて飲むと肩凝りに効くのだそうですが、まだ試していません。

西米良村から椎葉村に入ると、道はますます狭く、梅雨時の豪雨で崩れた崖や道路の工事中が多く、細い道は頻繁に遭遇する木材の搬出の車との離合が大変でした。でも、そのおかげで、車の速度は非常にゆっくりで、車窓の景色を堪能することが出来ました。自動車道では味わえない贅沢です。ひむか神話街道です。今年は古事記編纂1300年の年です。道々に謂れを示す碑や立札がありましたが、それを一つ一つ楽しむ時間が無かったことは残念でした。つくづくと新幹線より在来線、自動車道より一般道、飛行機は論外(上から見る雲海には感動しますが)、最高の贅沢は徒歩の旅、との思いを強くしました。便利さと引き換えに、私達はどれほど多くのものを手放したのでしょうか。

五ヶ瀬溪谷の道は愈々細く曲がりくねり、漸く辿り着いた五ヶ瀬ハイランドは、当然のことながら、シーズンオフの為、全ての施設が閉鎖されて自動販売機すら有りません。お弁当、飲み物持参は正解でした。見渡す限り広がる山並みは息をのむ素晴らしさでした。足許にはフウロソウやクサハナビが咲き乱れ、マムシソウが赤い実をつけ、綾のそれより黒みの強い赤とんぼにも出逢い、秋を満喫することは出来ましたが、スキー場の周りには肝心のツリフネソウは有りませんでした。

初めてやって来て出逢おうとするのが図々しいのかも、と諦めて帰りかけた時、薄暗い山陰に沁みだした水の流れている所がありました。ツリフネソウはこんな場所が好きなのよね、と夫に話しかけた丁度その時、淡紅色の花の一群、少し広い所に車を停めて降りてみると、まさしくハガクレツリフネです。シャッターを切る手も震えました。近くには少ないながらもキツリフネまで咲いていました。何という幸運なのでしょう。手術から丁度半年目の9月12日、神様からお祝いを貰ったような気持ちになりました。写真は少しピンボケでしたが、かけがえのない思い出の一枚です。

東北の豊かな自然、暖かい人々の繋がりを壊してしまった、あの震災からもう1年半が過ぎてしまいました。インフラや産業も少しずつ復旧しているとは伝えられますが、未だに行方の判らない方、身元の判らないご遺体が多いといえます。津波で流されてしまった街を高台に移す、という案も高台の土地は相続手続きが出来ていない所が多く、所有者が未だに明治時代に亡くなっている人の名義のままになっている場合もあり、困難を極めているとも聞きます。瓦礫の処理も広域処理に固執するあまり進んでいません。自治体の一部は独自の判断で防潮堤作りに利用し始めたようです。

そんな中でも、被災地の子供たちの笑顔が明るい、という話をよく聞きます。それは表面的なものであって、どれほど小さな胸を傷め、辛い思いをしていることかと思っていました。ある夕方、たまたまラジオで、仙台を中心に男女共同参画関連の事業を展開し、仙台で子供の為の「アトリエ自遊楽校」を主宰する新田新一郎氏のお話を途中からでしたが聴く機会が有りました。南三陸町で“子供スマイルミュージカル～明けない夜はない”を開催し、参加した子供たちも、観客もみなが一つになって感動の時を共にし、涙した、というのです。被災地で、明けない夜ない、だなんて、何と安直な、何と陳腐な、何と観念的な、と思いました。でも、お話を伺っていると、津波に襲われた夜、地元のラジオ局のアナウンサーが一晩中、必ず夜は明けます、と語りかけ続けたというのです。漆黒の闇、寒さ、頻りに襲ってくる余震、そんな状況の中、ラジオからの声がどれほど心強かったか。想像を絶するものが有ります。その想いが甦って身体の奥底からの感動になったのでしょうか。私の反応こそが、陳腐で、観念的なものでした。

新田氏は、被災地の子供たちの笑顔についても触れておられました。被災地の子供たちは、守られるだけでなく、お年寄りを助け、地域で頼られる担い手であること。その度に、沢山のねぎらいと感謝の言葉を買った。それが子供たちの逞しい笑顔を生み出している、と。納得です。

必要とされ、居場所が有ることは、どんなに過酷な環境に在っても人に優しさと自信を与えるのでしょうか。これは被災地に限らず全ての子供たちに当てはまるに違いありません。昨今の犯罪としか言いようのない“いじめ”の解決のヒントかもしれません。

それにしても世界中、全ての場が機能不全に陥っている様にしか思えません。

国連は世界中を平和に導くことが最大の役目だと思うのですが、シリアからの撤退に見られるように、機能しているとは言い難いものが有ります。現在日本が抱えている尖閣諸島、竹島、北方領土における近隣諸国との間の軋轢も歴史的、第三者的に裁定を下してくれば良いのに、と思いますが、歴史はそれぞれの国の歴史観が有るのでしょうか。国際社会において地球規模で繋がっている

現在は、全ての国の間に利害関係が存在し、第三者たりうる国は無いのかもしれませんが。ならば、本国から一定距離離れ、一定期間無人である島は、公海のように公の島にして、建造物は造らない。また、一定距離離れている島を、実効支配し、それに異議を唱える国が存在する場合は、周辺の海は公海。とでもしたらとも思います。もっと、争わない為の知恵を絞るべきです。

国の国民に対する最大の義務は、国民の安全を守ることだと思います。

首都直下型の地震や南海トラフ巨大地震の被害想定が相次いで発表されました。目を覆いたくなるような数字が並んでいます。原発の直下、もしくは近くに次々に活断層らしきものが見つかり、古文書にも過去の巨大地震や、津波の被害の様子が記されていることも判ってきました。しかも、災害は地震だけではなく、火山の噴火、竜巻、等々、多岐に及んでいます。

そんな日本には原発を作る場所など有りません。

昨年、あれだけの事故を起こした福島第一原発。昨年12月、冷温停止状態になったとのことで早すぎる終息宣言は出されましたが、事故の処理はまだまだ道半ばです。それにも拘らず、夏の電力不足を理由に再稼働された大飯原発3、4号機。野田総理は“安全を確認。私の責任において再稼働を認める”と会見しました。それに対して、朝日新聞の“声”の欄に、“責任を取れないことに対して、責任という言葉を使うのは間違い。あれは権限という言葉を使うのが正しい”という皮肉めいた批判を寄せた男性がおられました。全く同感です。

それでも、新しいエネルギー政策については、各地で意見聴取会開かれ、討論型世論調査も行われ、パブリックコメント(残念ながら存在すら知らなかった私は参加できませんでした)も集められた結果、9月14日、エネルギー政策関係閣僚会議が取りまとめた新しいエネルギー戦略は、2030年代には原発をゼロにするというものでした。28年間も原発を使い続けて、処理の出来ない使用済み核燃料を増やし続けることに、暗い気持ちは残りましたが、それでも一歩前進だと思いました。その時私は92歳。何とか見届けたいと思いました。それが、翌日15日、建設許可が出ている原発の建設は中止しない、との枝野経済産業大臣の発言です。2050年代以降にならなければゼロになる見込みは無いのです。私は112歳以上、無理です。しかし、失望はそこでは終わりませんでした。19日の閣議決定に、原発ゼロの文言が盛り込まれることは無かったです。経済界からの強い反発に加えて、当面核燃料サイクル(使用済み核燃料の再処理)を堅持する、としたことで、原発ゼロになっても残り続ける、軍事利用可能な大量のプルトニウムの保持に、各国からの懸念が有ったと言います。

原発ゼロを実現するためにも、現在、日毎に増え続け、中間処分場さえ決まらない汚染廃棄物、使用済み核燃料の最終処分の方法を一日も早く確立して欲しいと切望します。

国の機能不全は、原発に関することだけには留まりません。

水俣病、カネミ油症など何年経っても救済できないこと、長年にわたって沖縄を蔑ろにしてきたことにも如実に表れています。生涯を通して、“知ってしまった者の責任”だと、水俣病と真摯に向き合ってこられた医師、原田正純氏の様な方が亡くなられたことは非常に悔やまれます。原田医師は福島第一原発事故後の国の対応に、水俣病での反省も教訓も生かされていないと警鐘を鳴らしておられました。原発に“安全基準”という言葉を使うのは間違い。“我慢基準”に他ならない、と。

機能不全に陥っているのは、地方自治体も教育現場も家庭も同じです。我が子を虐待し、殺し、あるいは過度の期待を押し付ける親も少なからず見受けられます。犯罪集団の所業としか思えないような“いじめ”に対して、教育現場、自治体は責任逃れに他ならない態度を続けています。家庭、教育現場、自治体すべてが手を携えて、逞しく生きる力を持った優しい子供を育てていかななくてはなりません。若い親たちを支えることから始めなくてはならない所まで来てしまっているように思います。現在の幼児の環境を、心豊かにするために、幼稚園、保育所、小学校低学年には経験豊かな、親の代わりにとなり得る副担任を複数配置することも必要です。10代の児童、生徒とは丁寧に話し合い、労働を負担させることも必要でしょう。職場でまで“いじめ”が存在することを重く受け止めなくては、と思います。

子どもについて カリール・ジブラン 神谷美恵子・訳 (角川文庫)

赤ん坊を抱いたひとりの女が言った どうぞ子どもたちの話をしてください
それで彼は言った あなたがたの子どもたちは、あなたがたのものではない
彼らのいのちそのものの、あこがれの息子や娘である
彼らはあなたがたを通して生まれてくるけれども、あなたがたから生じたものではない
彼らはあなたがたと共にあるけれども、あなたがたの所有物ではない
あなたがたは彼らに愛情を与えうるが、あなたがたの考えを与えることはできない
なぜなら彼らは自分自身の考えを持っているから
あなたがたは彼らのからだを宿すことはできるが、彼らの魂を宿すことはできない
なぜなら彼らの魂は明日の家に住んでおり、あなたがたはその家を夢にさえ訪れられないから
あなたがたは彼らのようになろうと努めうるが、彼らに自分のようにならせようとしてはならない
なぜなら命はうしろに退くことはなく、いつまでも昨日のところにうろろぐずぐずしてはいない
あなたがたは弓のようなもの
その弓からあなたがたの子どもたちは、生きた矢のように射られて、前へ放たれる
射るものは永遠の道の上に的をみさだめて、力いっぱいあなたがたの身をしなわせ
その矢が速く遠く、とび行くように力をつくす
射る者の手によって身をしなわせられるのを、よろこびなさい
射る者はとび行く矢を愛するのと同じように、じっとしている弓をも愛しているのだから

私自身が子どもたちと格闘し、悩んでいた若い頃、たまたま友人に誘われて出掛けた長岡輝子さんの朗読会で出逢った詩です。

今は、学力よりも、人としていかに生きるべきかを自分で考えることが出来るよう、自分の考えを自分の言葉で表現できるよう、他人の痛みを想像できるように、大人たちは子供たちに、あらゆる支援を準備すべき時です。

時間はかかるでしょうけれど、今始めなくては、と思います。

「教育とは、他人を助ける力をつけさせる為のもの。」娘たちの夏休みの課題帳の裏表紙に載っていた、藤本儀一氏の言葉です。30年近く前に出逢った、忘れられない言葉です。

8月のある日、友人からのメールに、ガガイモの実に小さな神様、という一文がありました。調べると、日本神話の、スクナビコナの神が乗ってきた船はガガイモの実を二つに割ったものだということです。宮崎県南部の都井岬にはガガイモの仲間のフナバラソウが自生しているそうです。都井岬にはその他にもダイサギソウ、ホソバヒメトラノオ、ボンテンカ、ノヒメコリ、ムラサキセンブリ、オキナグサ、ヒメノボタンなどの希少種が自生していると言います。都井岬の近くにはイモ洗い猿で有名な幸島も有りますし、都井岬沖には九州最大級のテーブルサンゴの群集も有ることがわかりました。一度行ってみたいと思います。

また別の日のメールには、ヤマナシの華やかな花が“昆虫酒場”になっていた、と。昆虫酒場、胸が躍ります。私もそんな光景を見たい、と思いました。9月に入って、我が家の前の水路の傍のイタドリの花に無数のヒョウモンが群れ飛んでいました。アブやハチも沢山です。みな一心に花に顔を突っ込んで蜜を吸っています。これぞ昆虫酒場、とニンマリです。

彼女からのメールで、宮澤賢治の作品にヤマナシという詩が有ることも知りました。調べると、宮澤賢治は私が思っていた以上に世の中に多くの影響を与えた人でした。

別の友人は、月光の妖しい美しさと西行の歌、そして蒼然たる名月という素敵な言葉を教えてくれました。

友人達からのメールは私の世界を広げてくれ、生活の質を深め、心を豊かにしてくれます。

大五郎と杏はますます仲良く、いつもくっついてます。大五郎は何でも杏に譲り、良いお兄ちゃん振りを発揮しています。ただ、大五郎が杏を可愛がり過ぎて、舐めた後は毛玉だらけです。

夫が一年半がかりで作った池は、井戸水を引き込む水路に入れた、料理した後のフレイソウが繁りすぎて石組みを壊しかける、という騒動は有りましたが、サギ草が元気に咲き、無数にいたオタマジャクシもアマガエルは全て巣立ち、今は数匹のトノサマガエルが池の主になっています。初めに15尾入れた赤メダカは数えきれない位に増え、赤、白、黒、斑、になってしまいました。夏の間に藻が増えて水が汚れたためか、アメンボは姿を消しましたが、ゲンゴロウ、ヤゴ、ミズスマシ、水カマキリ、カゲロウの幼虫など随分と種類が増えました。オニヤンマ、数種の赤トンボ、シオカラトンボ、ムギワラトンボ、カワトンボやイトトンボの仲間などがやってきます。トンボはよく訓練されたモデルのように、カメラの前で微動だにせず協力的です。その場を飛び去っても、暫くすると同じ場所で同じポーズをとってくれます。それに引きかえアゲハチョウたちの翔びかたは、如何にも優雅ですが、一時もじっとしていなので、手のひらサイズほどもある大型のモンキアゲハもクロアゲハもナガサキアゲハも眺めるばかりで、撮ることは出来ません。エプロンのポケットには常にカメラを入れています。

7月11日、綾町を中心とする一帯がグネスエコパークに登録されました。日本最大級の照葉樹林と伝統的な循環型農業への取り組みが評価されました。照葉樹の奥深い森には、絶滅したと思われるあらゆる生き物が、今でもひっそりと命を繋いでいるに違いない、そう思わせてくれる魅力があります。

(K.O.)

宮崎・綾地域 エコパークに ユネスコ登録決定

文部科学省は11日、

して76年に始まった。

両立が評価された。

か、大台ヶ原・大峰山
(奈良、三重)、白山
(岐阜、石川、富山、
福井)、志賀高原(長
野、群馬)が登録され

国内最大規模の照葉樹
林で知られる宮崎県の

世界自然遺産は手付が
ずの自然を守ることが

綾地域は昨年10月、
文科省がユネスコに推
薦した。ユネスコの諮

野、群馬)が登録され

綾地域が、国連教育科
学文化機関(ユネスコ)

の「エコパーク」に登録
が決められたと発表し

諮問委員会が今年4月に
登録するよう勧告し、
今月9日からパリで開

か、大台ヶ原・大峰山
(奈良、三重)、白山
(岐阜、石川、富山、
福井)、志賀高原(長
野、群馬)が登録され

た。国内で5カ所目、

今回の登録地域は、

今月9日からパリで開
かれていた会合で正式

か、大台ヶ原・大峰山
(奈良、三重)、白山
(岐阜、石川、富山、
福井)、志賀高原(長
野、群馬)が登録され

1980年に屋久島
(鹿児島)など4カ所
が登録されて以来とな

綾町、小林市、西都市、
国富町、西米良村の5
市町村にまたがる1万
4580㌫。有機農業

昨年7月時点の登録
数は、ガラパゴス諸島
(エクアドル)など1

か、大台ヶ原・大峰山
(奈良、三重)、白山
(岐阜、石川、富山、
福井)、志賀高原(長
野、群馬)が登録され

エコパークは、ユネ
スコの自然保護事業と

やエコツーリズムなど
自然保護と地域振興の

国内では屋久島のほ

か、大台ヶ原・大峰山
(奈良、三重)、白山
(岐阜、石川、富山、
福井)、志賀高原(長
野、群馬)が登録され

トンボ 2012. 初夏 (庭で)



我家の周りの鳥たちのシルエット
2012 なつ



震災がれきリスク問う

西条の 専門家招き講演会
市民団体

2012.9.7(日)

民の関心が高く手応えを感じた。受け入れ反対の署名活動を西条市側でも広げたい」と話した。

東温市が東日本大震災で発生した震災がれきの受け入れを検討していることを受け、隣接する西条市で8日、市民団体「西条の水を愛するネットワーク」が廃棄物処理問題に詳しい元滋賀大非常勤講師関口鉄夫さんを招き、同市丹原町北田野の田野公民館で講演会を開いた。市民ら約50人が、震災がれき搬入によるリスクの可能性を考えた。

関口さんは、がれきなどの廃棄物処理について、有害物質に基準値を設け安全性を強調する国の姿勢を批判。「(各有害物質が)基準値以下でも複合した場合の危険性が分からず、人間が認知できない多様な影響が起きうる」とした。

がれきに放射線物質



西条市民らが震災がれきのリスクについて考えた講演会＝8日午後、同市丹原町北田野

が含まれる恐れが否定できないとし「放射性物質が広域処理で拡散、焼却すれば濃縮される危険性も大きくなる」と述べた。このためがれきは、被災地の防潮堤材料に活用するのが最善の策とした。同ネットワークの野満育朗代表(39)は「市導を凶っている恐れが

が議会や市民の意識誘導を凶っている恐れが

き受け入れに向け、市民が議会や市民の意識誘導を凶っている恐れが

あると主張し、広域処理の政策や必要性を疑問視した。同県職員らは、国ががれき処理完了目標とした2014年3月を強く意識していたとし「国の補助制度終了を恐れ、追い詰まられていると感じた」と振り返った。(今西晋、森田康裕)

震災がれき 東温市検討 西条でも反対署名活動



「震災がれきへの不安に市の境は関係ない」と訴える野満育朗さん(左)ら団体メンバー＝4日、西条市内

東日本大震災で発生した震災がれきの受け入れ可否を東温市が検討していることを受け、隣接する西条市で農家や主婦らが5日までに市民団体「西条の水を愛するネットワーク」を設立、東温市に提出する受け入れ反対の署名活動を始めた。団体は西条市安用の野満育朗さん(39)と同市丹原町田野の同山之内良文さん(60)が中心となり、主婦数人

とともに8月末設立した。放射能汚染されたがれきが東温市に搬入された場合、同市から西条市に流れる水系もあることなどから「西条市民にも影響が出る恐れがある」としている。

現在、西条市内のイベントなどで署名を集めており、地元の農漁業団体や企業と連名で東温市に受け入れ反対要請書も提出する考え。東温市で反対運動に取り組む市民とも情報交換などで連携しているという。

野満さんは「がれきへの不安に市の境はない。(東温市は)私たちの声も聞いてほしい」と述べ、山之内さんは「安全な食料生産場所を守るのは国全体のためにもなる」と話している。

同団体は8日午後1時半から、西条市丹原町田野の田野公民館に元滋賀大非常勤講師の関口鉄夫氏を招き講演会を開催。参加費は資料代千円。問い合わせは野満さんへ携帯電話090(6754)6523。(今西晋)

の場
温フ
東ゴ

メガソーラー計画

空き地利用 来春開始目指す

東温市松瀬川の松山観光ゴルフが新規事業として、同所のゴルフ場松山ゴルフ倶楽部敷地内に、出力1メガワット規模の大規模太陽光発電所（メガソーラー）の設置計画を進めていることが20日、分かった。早ければ来春にも発電事業を始めた意向。井谷充宏支配人によると、ゴルフ場経営会社による発電事業は珍しく「ゴルフ場ならではの立地を生かしたい」と話している。

関係者によると、計画地は従業員と大型バス用駐車場の南側の土地約1畝。17年前にクラブハウスの移転地として整備したが、4年前に既存施設をリニューアルしたため、空き地となっていた。山あいだが南に開けているため十分な日照が得られるといい、約4千6千枚の太陽光パネルを設置する。

同社は20日夜、取締役会と理事会からなる運営協議会で協議し、方針を固めた。月内にも臨時株主総会で発電事業開始に向けた定款変更や発電設備の業者選定などを進め、本年度中に四国電力と売電契約の締結を目指す。

井谷支配人は「土地の有効活用だけでなく社会貢献に一役買った」とし、東温市と連携して子どもたちの見学コースをつくるなど、環境教育にも取り組んでいくという。

東京電力福島第1原発事故後、メガソーラー事業は注目を集め、県内でも伊予市などが遊休地を生かして発電所を誘致している。



松山観光ゴルフのメガソーラー建設予定地
＝20日、東温市松瀬川

(中藤玲)

愛媛国体ソフトボール会場 河川敷整備へ1億1000万

2017年の愛媛国体でソフトボールが開かれる東温市は、すでに競技会場に決まっている市総合公園（同市西岡）に加え、重信川かすみの森公園多目的広場（同市上村）も会場にする計画を進めている。

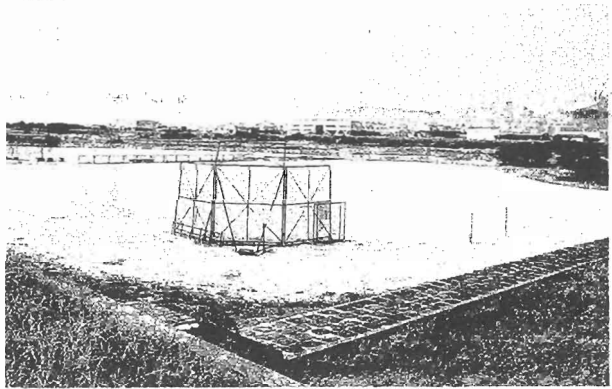
市によると、具体的な計画は来年度に決定。現段階では整備費約1億1千万円で、敷地改良に6千万円、仮設トイレの設置に1500万円など。うち数千万円は国や県の補助金を見込む。

同多目的広場は不足していた子どもたちのソフトボール練習場所として昨年4月に完成。現在は3面のグラウンドがあるが規模が小さいため、国体基準を満たすグラウンド1面分の競技場を設置。防球ネットや仮設スタンドを設け、国体終了後は解体して元に戻す。

市生涯学習課は場所の選定理由を「既存のグラウンドを生かして最少費用で抑えられる」と説明。河川敷のため増水などを懸念する声には「大雨の際も大規模な増水や鉄砲水の恐れはない」とし、国とも協議しながら防災対策を立てていくという。

愛媛国体では、同市で銃剣道とバスケケットボールも開催予定。

(中藤玲)



2017年の愛媛国体でソフトボール会場に計画されている重信川かすみの森公園＝14日、東温市上村

編集後記

やっと涼しくなった。異常気象に加えて世界の異変。平凡で真面目な一般市民の生活が脅かされつつある。最近特に気になるのは、中国・韓国・北朝鮮・ロシアそしてアメリカとの関係。その中でも特に中国との冷え込んだ関係は、耳目を覆いたくなるばかり。中国大使の車から日本国旗を奪い、日の丸を焼き、日本に関係ありと思う物を破壊・略奪し、暴力を振るう。それが少し鳴りをひそめたかと思うと、今度は、海上からの威嚇、また日々努力を重ねてきた友好行事が全てと言っていいほど一方的にキャンセルされる。それに対して日本の関係者は「毅然とした態度で対処する」と誰もが同じ言葉を繰り返す。この騒動で日本経済も大損害を被り、心もすさんで来る。

一方「行ってみた敦煌」を投稿された T.H さんは、この夏、仕事や観光で中国へ行き現地の人々と感動的な触れ合いの様子を描いている。ホッとする。

個人レベルでは友好的でも国家間レベルになるとお互い利害が絡み合い今のよように、にっちもさっちもいかなくなる。個々人は日々のニュースに注目し、悲しんだり怒ったりしながら行方を見守ることしか出来ない無力さがこれまた悲しい。

そんな中、「坊っちゃん劇場」の公演「誓いのコイン」がロシアで大好評だったというニュースは唯一心がすくわれる。 (S.K)

10月例会のお知らせ

10月3日(水) 10:00～ 林宅

今後の企画、会報80号記念号の内容など決めます。

多くの方のご参加をお待ちしています。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com